

2008年6月1日

自治体 殿
報道機関 殿
各政党・議員 殿
学校・教育関係者 殿

サマータイム問題研究人

marchan

国会提出予定のサマータイム法案の危惧について

拝啓、
サマータイム法案が提出されようとしておりますが、日本の東西に長い国土にはなじまないものです。ご意見を頂きたく、また報道機関殿には、番組として取り上げて頂き、サマータイムに関して、国民が論議できる場を提供していただきたく、節にお願いします。

戦後実施されたサマータイムが4年で廃止されたという経緯を考え、またCO2排出削減につながるかは、科学的見地から疑問ですし、睡眠障害、健康被害の発生も予想されております。
様々な機器に内蔵されている家庭平均40～50個もある時計合わせや、医療機器、IT関連の時計合わせ等の重大な問題発生も予想されています。これら問題点を隠しての早急な導入は避けるべきです。

数年前サマータイムを導入しようとしたときの政府、議員の理由は、明るい時間を有効に活用でき、経済活動が活発化することと、今回のCO2削減という理由とは真っ向から反対のものでした。（明るい時間を有効に活用といっても、日本のような中緯度、高温多湿の風土では活用できません。また、中緯度・高温多湿の国は過去にサマータイムを実施しても廃止しております。）

よくサマータイム実験が滋賀と北海道で実施され、好評だったと報道がなされておりますが、これは単なる時差出勤で、自分たちだけが、一時間早く帰れることによって、いろいろな用事ができたということであって、日本国が一律に実施したら、これらのメリットはありません。こういった「まやかし」を例に上げるのは、おかしいと思います。

自治体、議員殿には、この法案の重大さや日本の国土といったことと、サマータイムの実施について真剣に考えて頂きたくお願いします。
特に、九州・沖縄地区に与える影響は多大であり、日の出前の真っ暗闇の中を登校することが強制され、児童・子供達の安全といった点で、大きな問題があります。また農業国である日本では、動物たちの時差ぼけ問題の発生も懸念されます。

- - - - -

東西では、日の出時間の差が大きすぎます。東京地区と九州・沖縄地区での4月から9月までは約以下の通りになります。
サマータイムが実施されると、上記に一時間足しますから、

東京地区では、	現行	サマータイム
4月の日の出時間	5時30分	→ 6時30分
5月の日の出時間	4時50分	→ 5時50分
6月の日の出時間	4時30分	→ 5時30分
7月の日の出時間	4時50分	→ 5時50分
8月の日の出時間	5時10分	→ 6時10分
9月の日の出時間	5時30分	→ 6時30分

九州・沖縄地区では、悲惨です。

	現行	サマータイム
4月の日の出時間	6時20分	→ 7時20分
5月の日の出時間	5時50分	→ 6時50分
6月の日の出時間	5時40分	→ 6時40分
7月の日の出時間	5時50分	→ 6時50分
8月の日の出時間	6時10分	→ 7時10分
9月の日の出時間	6時20分	→ 7時20分

となります。

首都圏の問題、
都心からやや遠いので、5時とか6時出勤する人が多い。すると、真っ暗闇の中を出勤することになる月が発生し、家庭や駅等の公共機関では照明をつけ、自動車もヘッドライトを点灯して運転することになりCO₂発生が増大、電気の使用量増大を招くことになります。

また早朝の涼しい時間帯にスポーツを行う方も多いですが、真っ暗になるため、そういった機会が失われます。
夏期においては、子供達が夏休みといったこともあり、早朝に親子で虫取りをするといったことも多く行われておりますが、サマータイムが実施されるとこういった機会も失われ、親子のコミュニケーション機会の一つが失われます。

九州、沖縄などの西日本以西はもっとひどい状況になります。
まず、子供達の安全といった面で、日の出前の真っ暗闇の中を登校する月が発生することで、近年発生している、児童へのいたずらといった面で大きな問題があると思いますし交通事故といった心配も発生します。
また通勤時には完全な真っ暗闇の中を出勤することになりますから、家庭や駅等の公共機関では照明をつけ、自動車もヘッドライトを点灯して運転することになりCO₂発生が増大、電気の使用量増大を招くことになります。
これはたいへんおかしなことです。

次に日没後ですが、

東京地区では、	現行	サマータイム
4月の日没時間	18時30分	→ 19時30分
5月の日没時間	18時50分	→ 19時50分
6月の日没時間	19時00分	→ 20時00分
7月の日没時間	19時00分	→ 20時00分
8月の日没時間	18時10分	→ 19時10分
9月の日没時間	17時30分	→ 18時30分

九州沖縄地区では、	現行	サマータイム
4月の日没時間	19時00分	→ 20時00分
5月の日没時間	19時15分	→ 20時15分
6月の日没時間	19時30分	→ 20時30分
7月の日没時間	19時30分	→ 20時30分
8月の日没時間	19時20分	→ 20時20分
9月の日没時間	18時20分	→ 19時20分

となります。
明るい時間が実質増えますが、日本は国は、北海道以外高温多湿であり、日没後も長時間とても暑くて、なかなか涼しくなりません。一時間も時間が進んでいるので、その間クーラーをガンガンにかけなければ、暑くていられなくなります。企業では涼しい時間帯の操業増加により、エネルギー消費が減少する場合がありますが、その分家庭にエネルギー消費が移行します。家庭は古い機器を使用していることもあり、能率が悪く全体的には増エネになります。
スポーツなどは北海道や東北地方の一部を除き、できません。スポーツは早朝に行っている方も多いですから、スポーツ不足により国民の健康が損なわれます。

サマータイム実施に当たり、皆さん誤解されていること
夕方、明るくなったといっても、一日24時間には変わりはありませんから、朝早く出勤する人は、21時、22時には寝てしまいます。その間外が明るい時期があり暑いので、クーラーをつける必要があり、エネルギー消費はかえって増大します。

もっとも、北海道のみサマータイムというのであれば、上記の不具合はありませんが、北海道は酪農などの農業が盛んな地区であり、動物の時差ぼけ問題が発生しますし、4、5月は朝の時間帯に暖房が必要になってしまうことになり増エネとなります。こういったことを考えると、導入は難しいと思います。

日本の産業や東西に長い地形を考えると、法案は問題が多いと考えざるを得ません。もっと国民とメリット・デメリットを論議した後導入の是非を検討すべきだと思います。

是非リンク先のホームページを熟読してください。

<http://lagoon100.web.fc2.com/st/>

<http://www.jssr.jp/>

http://www.jssr.jp/oshirase/summer_time.pdf

<http://www.technobahn.com/news/2008/200803051254.html>

<http://www.news.janjan.jp/world/0404/0404062854/1.php>

以上ご回答をいただけたら、幸いです。

敬具